



発行日：平成 29 年 6 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆ 第 38 回川部会WGを開催しました！

5 月 26 日（金曜日）に第 38 回川部会WGが開催されました。今回の WG では、豊田市矢作川研究所が阿摺ダム下流（ソジバ）で取り組んでいるアユの生息環境改善実験現地を視察した後、今年度の川部会 WG の進め方について豊田市職員会館にて話し合いを行いました。



日時：平成 29 年 5 月 26 日（金）13:00～17:30

場所：矢作川阿摺ダム下流現地および豊田市職員会館 3F 第 1 部室

参加者：25名（事務局含む）

◆ 主な意見交換内容

1. 本日の話し合いでわかったこと



■ 阿摺ダム下流（ソジバ）におけるアユの生息環境改善実験について

実験の目的と概要について、豊田市矢作川研究所山本研究員から説明をいただき、共同実施者である内田座長からは現地で採取した底生動物（水生昆虫）を題材として、底生生物を指標とした河床環境評価の考え方について説明をいただきました。

● 目的

阿摺ダム下流は矢作川でも有数のアユの釣り場でしたが、1990年代以降はアユ釣りの不良が続き、その原因は河床環境の悪化によってアユの餌となる付着藻類の質が低下し、なわばりを持たなくなったからであると考えられていました。このため、人工的に昔の川底に近い環境をつくり、アユや餌となる付着藻類の生息状況を調べることとしました。

● 実験概要

矢作ダムで採取した玉石を川の中に敷き、昔のような柔らかい河床を再現した上で、以下の調査を行います。

- ・ 礫を置いた場所で、アユがなわばりを持つか
- ・ 出水時に礫が転がることによるクレンジング効果
- ・ 底生生物の生息状況（追跡調査）
- ・ 生息種の生態特性から河床環境の改善状況を評価



2. 今後のスケジュールについて



- 6月～8月までの開催日を以下のように決定しました。

【第39回】6月30日（金）午後 【第40回】7月18日（火）午後 【第41回】8月23日（水）午後

- 各WGにおける話し合いのテーマについては、以下の中から事務局が調整して決定することとしました。

《本川モデル》

- ・ 加茂川池水門下流に整備した棚上げ式魚道の設置状況と今後の対応について（現地視察あり）
- ・ 矢作古川分派施設における魚類の遡上環境について（現地視察あり）

《家下川モデル》

- ・ 家下川湛水防除事業の実施状況と魚の移動に関する情報共有と意見交換（現地視察あり）

《地先モデル》

- ・ 「山村再生担い手づくり事例集」（山部会）との連携について
- ・ 矢作川研究所 吉橋研究員（専門：人文社会学）による講座と意見交換（矢作川と人とのつながり）

3.意見交換

1.阿摺ダム下流のアユ生息環境改善実験について

(・意見 ▶回答)

- ・矢作川本川の現状として気になるのは水がきれいすぎる＝有機汚濁が少ないことである。特に川の植物相の動態と関わりがあるため、どのように変化していくかが重要である。(鷲見)
- ▶ 最近、海域の貧栄養化が問題となっている。伊勢三河湾でもアサリが激減し、その原因の一つとして河川水質の影響が考えられており、アユが釣れなくなっていることにも関係している可能性がある。(服部克)
- ▶ 貧栄養化について研究所としても調査する必要性を感じた。また、研究所で気にかけているのは濁度である。過去に比べて濁度の値が高く、懸濁物質の蓄積が生物に与える影響の可能性が気にかかる。(山本)
- ▶ 窒素、リンだけでなく珪藻が生態系のベースを担保しているので、できればケイ酸の観測も必要である。濁度については、有機の濁度と無機の濁度がある。無機の濁度が岩の上につくとあまりよくないと聞いている。濁度を考えるときは無機と有機とを分けて考えてほしい。(井上)

2.三河湾大感謝祭について

- ・主催者の愛知県からの情報として、現時点では開催日と場所が決定しているのみである。先日、山部会に打診済みでブース出展の了承を得ている。川部会として参加していただけるか意向を確認したい。(事務局)
- ▶ 以前、川関係のイベントで阿部夏丸さんが主体となって移動水族館(軽トラックに魚を入れた水槽を積んで展示する)を行っている。協力をいただけるなら、このような対応も可能である。最低限の対応として、ブースを借りて、川部会活動のパネル展示と会員自身が来訪者に説明することを案としたい。(内田臣)

3.矢作川感謝祭について

- ・今年度の開催日は9月2日(土)で、主なイベントは魚釣り大会、魚釣り教室、雑魚試食など、川に親しめる内容としている。すでに山部会WGの議題としてメンバーから参加協力の話をしていただいている。(内田良)
- ・流域圏懇談会として、やってほしいことはあるか?(内田臣)
- ▶ 将来的には山・川・海の連携につなげたい。川部会からもアイデアがあれば提供してもらいたい。(内田良)
- ▶ 海部会のWGが6月に開催されるので、その場でも協力を呼びかける。(事務局)

4.矢作川事業計画について

- ・矢作古川の分派施設が完成しているので、平常時の魚の遡上状況をぜひ調査していただきたい。(本守)
- ・越戸ダム下流で実施する置土実験について、投入点の上流から流れてくる土砂があるかを調べてほしい。置土の土砂のみが流れているのか、上流からの土砂も一緒に流れているのかを把握するのは重要である。岩盤河床区間を利用して、どのくらいたまっているかを計測するのもよい。(鷲見)



(2) 振り返り

よかったと思うこと: 矢作川研究所の取組に興味があり、現地に行けてよかった。/内田座長はじめ所属の学生さんらが対照区と礫置き区の礫および底生生物(トビケラ類等)を採って比較観察させて頂いたこと。/川部会の活動について理解することができた。/メンバーの方々のしっかりとした議論の様子を体感できた。

よくなかったと思うこと: 川部会の活動テーマ1に沿って、各立場からの意見、イベントでの川部会活動の情報発信の機会をうまく使う手だてなどもう少し展開してほしかった。/4月の根羽村交流会に川部会メンバーとして参加したときに感じた熱気・感想を本WGで伝えたかったが、会議の中で発言をする機会がなかった。

今後、取り組んでいきたい活動など: 矢作川の水がきれいな話(窒素、リン)や濁度の変化の話をしてみたい。/三河湾環境再生パートナーシップクラブとの実効のある連携。/三河湾大感謝祭に参加するのであれば、その内容について考える。/イベントにおける川部会活動の情報発信・交流への参加。

今後の流域圏懇談会の予定

■第39回川部会WG

日時:平成29年6月30日(金)13:00~

※詳細についてはMLにて連絡します。

内容:(予定:地先モデル)家下川湛水防除事業実施状況の現地視察及び意見交換



◆お問合せ◆

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 指導官 小林 調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

